



西中だより

教育目標

豊かな人間性を培う
創造 自律 敬愛 健康

令和8年1月29日発行

第10号

「力を蓄える（普段の積み重ねが大切）」

余市町立西中学校長 豊田 一正

今年のお正月は雪も落ち着き穏やかでしたが、先週は暴風雪や大雪に見舞われ、札幌では記録的な大雪のため交通や生活などに大きな影響が出ました。雪も一気に降るのではなく、「考えて降ってくれたらなあ」と思ってしまいます。また、大きな雪山が危険箇所になっていますので、登下校の際などは十分に気をつけるようご家庭でもお声がけをお願いします。

さて、1月15日には3学期の始業式を行いました。冬休み中は事故などの連絡もなく、生徒たちは元気な姿を見せてくれました。式の中では各学級の代表者が「冬休みの反省と3学期の決意」を発表しました。冬休み中に頑張ったことやなかなかできなかったこと、そして、3学期に向けて個人や学級として頑張りたいこと、頑張らなければならないこと、学級のまとめや有意義な学校生活に向けての決意が発表されました。新しい年が始まると、何か新鮮さを感じるものです。生徒たちには明るく、前向きな目標を持ち、伸び伸びと学校生活を送ってほしいと願っています。

3学期は短いですが、1年をしっかりと振り返り、自分の成長や課題を感じながら次のステージへの準備を行う大切な学期です。特に3年生は自分の進路を自分の力で切り拓いていく大切な時期になります。授業では教科書の内容も終わりが近づき、まとめや総復習になります。また、面接練習が本格的に始まり、すでに面接試験を終えた生徒もいます。毎年、この時期に感じることは、やはり『普段の積み重ねが大切』だということです。西中学校では、12月に「面接の手引き」を配付し、学級指導を行います。その後は、「志望動機」「中学校で頑張ったこと」「高校で頑張りたいこと」「長所と短所」などの質問に対する回答を各自で考え、学年で面接練習を行い、最後に校長との面接練習になります。



校長との面接練習では、緊張しながらもしっかり答えようとする姿や「成長したな」と感じる姿が多く見られ、「バッチリ」「大丈夫」「自信を持って」などの言葉をかけて生徒を送り出します。面接試験で大切なことは「答えの内容」ではありません。入った瞬間に見える立ち姿、着こなし、礼の仕方、表情などの「印象」や、声の大きさ、言葉遣い、考え方などの「答え方」と言われます。また、言葉に力を与えるのは話す人の一生懸命さ、真剣な眼差し、ほど良い緊張感、そして、見えない言葉を相手の心に響かせるためには、その人から感じられる雰囲気 중요합니다。

では、このような雰囲気はいつ身につけるべきなのでしょう。そうです。1, 2年生の時の生活を含め『普段の積み重ね』が大切なのです。面接の時は誰でも緊張します。普段が出てしまうものです。また、その時だけ「しっかりしよう」ということは難しいことです。ですから、普段の積み重ねを大切に力を付けていかなければならないのです。

このことは、学習にも言えると思います。高校入試の試験範囲は中学校で学習した内容全てです。もしかすると、今日授業で学習したことが出題されるかも知れません。「あ～、あの時勉強したんだけど・・・」はもったいないので、今できることにベストを尽くしてください。そして、一人ひとりの学習面や生活面での頑張りを学級や学校全体に広げていきましょう。そうすると、きっとより楽しい学校生活になると思います。1, 2年生はこれからどんなリーダーや上級生として新入生の前に立つのか、どんな学級、学校にしていきたいかを考えてくれると嬉しいです。進級を控えたこの時期にしっかりと力を蓄えてほしいと思います。頑張ってください。

終わりになりますが、保護者、地域の皆様にはいつも本校の教育活動へのご理解・ご協力をいただきありがとうございます。今年も教職員が力を合わせ、皆様とともに子どもたちの健やかな成長を目指していきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。